

東日本大震災における ボランティアの活動意図

1

生活文化学科 10461348
安藤ゼミ 片岡 真希

問題関心

- ボランティアの種類によって活動意図の規定因は異なる？
- 安藤・広瀬（1999）によると、環境ボランティアにおいて、活動の有効性認知は有意な説明変数とならなかった
→被災地の復興支援ボランティアでは？
- 被災地や被災地の人への愛着も活動意図の規定因ではないのか？



本研究の目的

東日本大震災におけるボランティアの

- 参加のきっかけ
- 積極的活動意図と継続意図の規定因

↑ 現在の活動以外での
復興支援活動も含む

を検討する

方法

聞き取り調査

- 調査期間 2013年2月～3月
- 対象者 関西Mydogirlsに所属する学生 8名

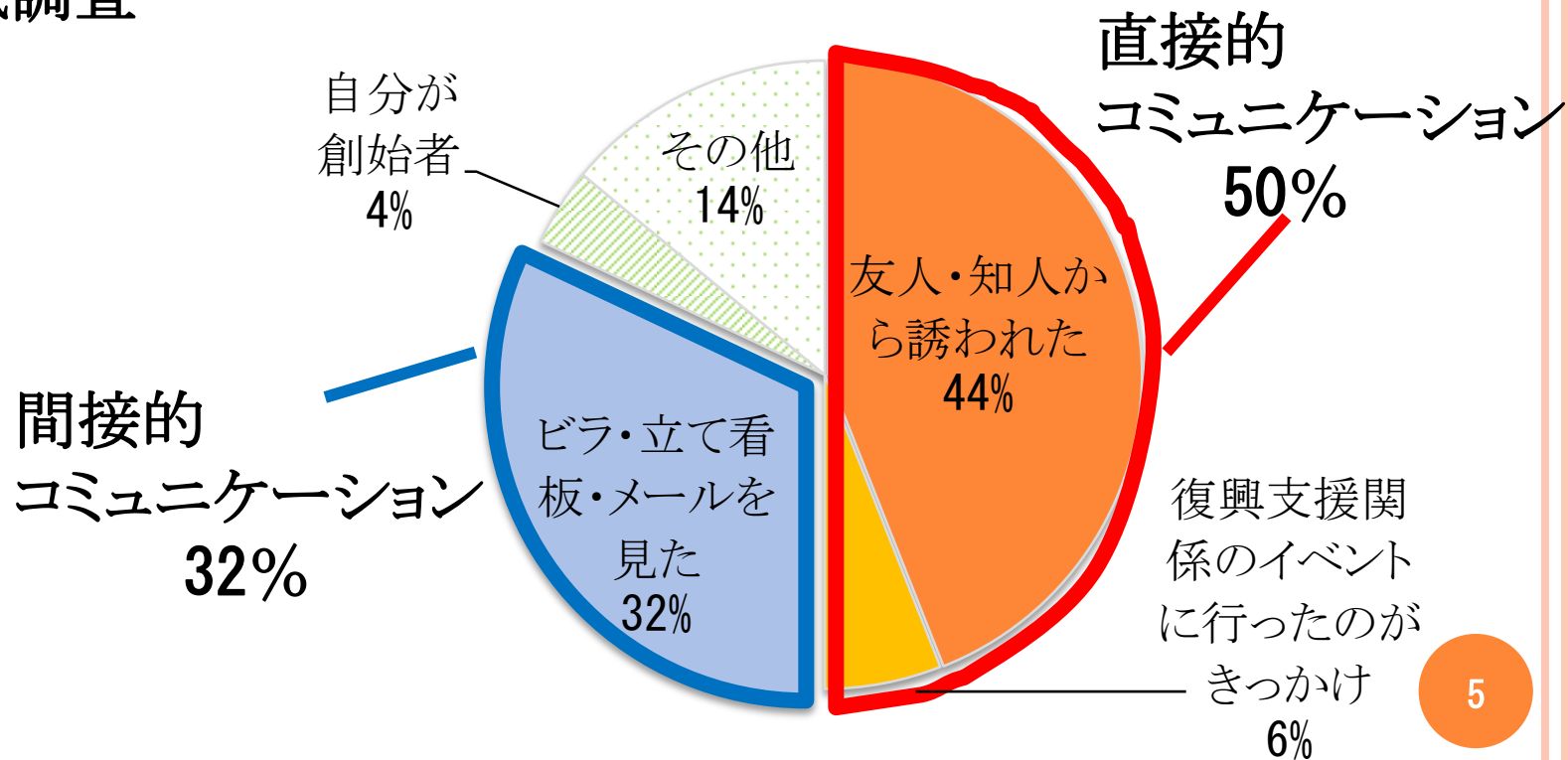
質問紙調査

- 調査期間 2013年7月～8月
- 対象者 東日本大震災におけるボランティア活動を行っている人
- 回収率 50部 47.6%、有効回答数 50部

参加のきっかけ

聞き取り調査・・・全員が直接的コミュニケーションをきっかけとした参加

質問紙調査・・・



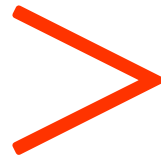
参加のきっかけ



直接的

コミュニケーション

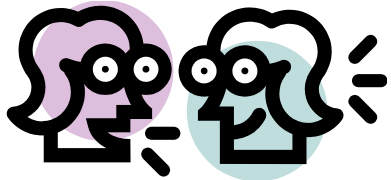
ex) 友人・知人から誘われた



間接的

コミュニケーション

ex) ビラ・看板・メールを見た



◆ 被災地の復興に対する関心が低くても、**知人や友人に誘われる**ことで**参加しよう**という意図が高まる

◆ 活動を**身近に感じ**、参加することへの**ハードルが下がる**

重回帰分析結果 〈積極的活動意図の規定因〉

活動期間

団体への帰属意識

支援している被災地・
被災地の人への愛着

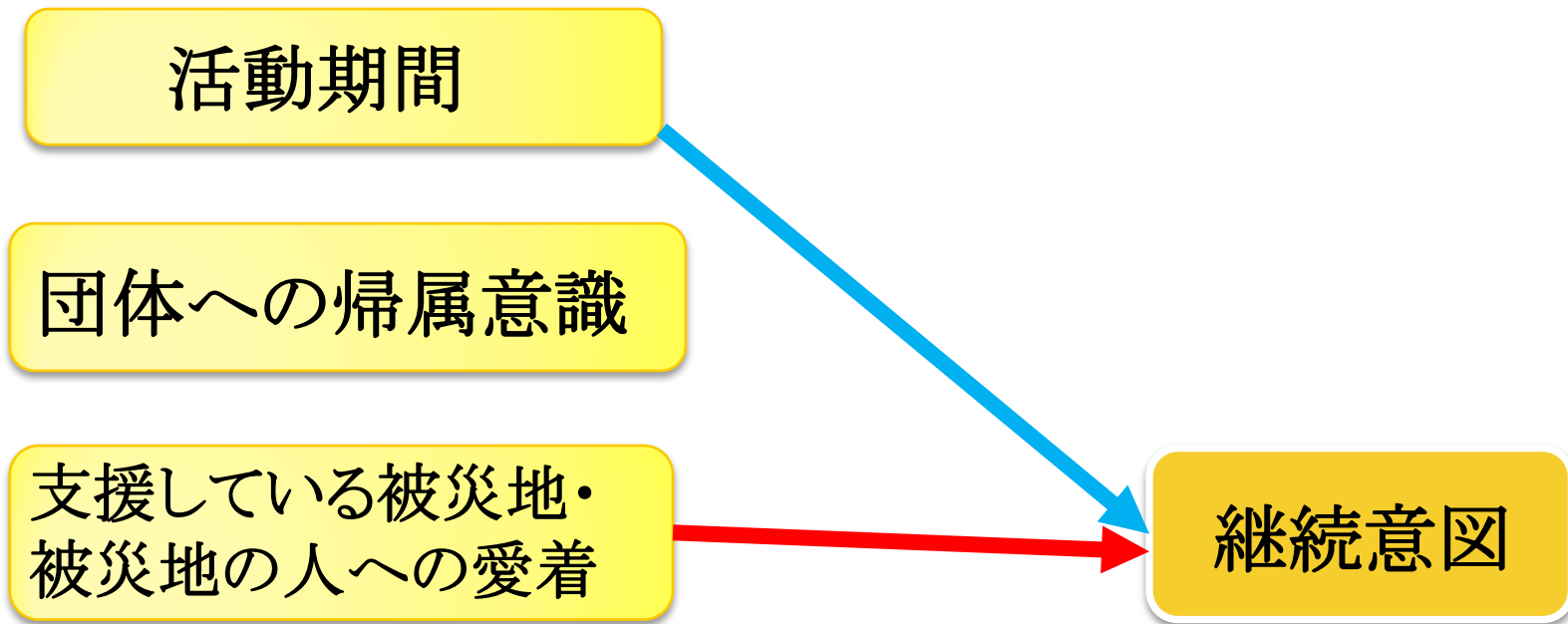
コスト評価

ベネフィット評価

積極的活動意図

- ◆ 所属している団体への帰属意識が強い人ほど、活動に対して積極的である

重回帰分析結果 〈継続意図の規定因〉



◆ 活動期間が短く、支援している被災地（の人）への愛着が強い人ほど、復興支援活動を継続する意図が高まる

ベネフィット評価

まとめ

- 活動の参加には、**直接的コミュニケーション**による**きっかけ**が有効
- **団体との結びつき**は活動に対する**積極度**に影響を与える
- **被災地や被災地にいる人への愛着**の強い人ほど、**復興支援活動を継続**していくことに**積極的**である

ご清聴ありがとうございました